

平成 30 年 2 月 貫井図書館指定管理者連絡調整会議 議事要録

日時	平成 30 年 2 月 22 日 (木) 14 時 00 分から 14 時 40 分まで
場所	光が丘図書館 第一会議室
出席者	<p>(1) 光が丘図書館 (以下「光」) 管理係長、運営調整係長・係員 (2)、事業統括係長、子供事業統括係長 ※光が丘図書館長は欠席</p> <p>(2) 貫井図書館指定管理者 (株式会社図書館流通センター) (以下「貫」) 貫井図書館長、同館業務従事者 (2)、本社スタッフ (1)</p>
内容	<p>① 施設管理について</p> <p>(光) 第二対面朗読室で聞こえるトイレからの音漏れについて、大きな対応はできないが、トイレの防音対策について考えたい。</p> <p>(貫) 対面朗読室とは別に倉庫に結露が発生してしまい何か良い工夫が出来ないか考えているところだが、予算があれば、対応をお願いしたい。</p> <p>→ (光) 第二対面朗読室と併せて検討する。</p> <p>(光) 1 月に児童トイレの表示を目立つようリニューアルしているが状況はどうか。</p> <p>→ (貫) 児童コーナーにあるトイレは子供用トイレであることがわかりにくかったため、目立つ表示をした。誤って一般の方が入らないよう注意喚起となっている。</p> <p>(光) 1 月に最新の新聞に「1 人一部まで」と表示したタグを付けた件について</p> <p>→ (貫) 最新の新聞を複数持っていたり、長時間持っていたりしている利用者について苦情があったため、「1 人一部まで」の表示を付けた。</p> <p>(光) 認知症の疑いがある利用者の対応について</p> <p>→ (貫) 高齢者相談センターの方に何回か来てもらい、話すきっかけを作ってもらった。区の担当部署にも連絡し、その後は臭いや服装は改善されたが、カウンターでのやり取りがうまくできず対応に苦慮している。</p> <p>② 一般事業について</p> <p>(光) 12 月開催の「聴導犬がやってくる」について</p> <p>→ (貫) 盲導犬に比べ認知度の低い聴導犬について知ってもらうため、第一部では講師による講演、第二部では講師と犬によるデモンストレーションを行い、聴導犬の仕事を紹介した。当初は一般・児童向け事業として、参加者を募集したが、利用者から聴覚に障害のある方も参加したいとの希望があり、手話通訳や要約筆記の手配を行った。聴導犬を普及させるうえでの問題点や聴覚に障害のある方々との接し方など、幅広い内容となり、参加者も熱心に話を聞いたり、質問をしたりし、関心の高さを感じた。</p> <p>→ (光) ほかに聴覚障害者向けの事業を行っているので、事業のつながりもあり良かったと感じた。</p> <p>(光) 1 月実施の「福袋」について</p> <p>→ (貫) 一般向け 30 袋、幼児から低学年向け 30 袋、低学年から中学年向け 10 袋、中学</p>

年から高学年向け 10 袋、青少年向け 10 袋、合計 90 袋を一回に全て展示し、3 日目には 1 袋のみとなった。袋には、中身の本に関するコメントを付け、選びやすいように工夫した。福袋の実施は今回で 5 回目となるが、利用者が普段手に取らないジャンルの本に触れるいい機会となっている。思いがけない本との出会いを通してさらに読書への興味を持ってもらえるものと思う。

③ 児童サービス事業について

(光) 12 月、1 月の学校支援の状況は。

→ (貫) 1 月に読書週間や読書月間のイベントがあり、それに対する打ち合わせや準備を 12 月に行った。イベントでは、小学校の 4 校中 3 校でブックトーク、アニメーション、ビブリオバトルなどの支援を行った。冬休み期間中の開館要望はなかった。

(光) 家庭での読書推進向上に向けた考えについて

→ (貫) 直接、支援員が家庭とのやり取りをする機会はないが、毎月作成している図書日より読書旬間の子供たちの様子をコラムのような形で掲載している。また、小学校については、長期休みの課題図書用に作成しているブックリストに支援員が関わっており、それぞれのご家庭でどんな本を読めば良いかわからない場合に活用してもらっている。

(光) 毎月、図書館で実施している「学校支援員による特集展示」について

→ (貫) 学校支援の様子や活動を来館者にお知らせしようと児童コーナーで行っている。児童が興味を持つような資料を展示しているが、小さい子向けの本は貸出の回転が速いものの、青少年向けの本は貸出が少ない。

(光) 12 月開催の「読み聞かせと『かたち』の絵づくり」について

→ (貫) 2 月に行った分を含めて練馬区立美術館との連携事業は、今年度 3 回実施した。12 月の事業は、小学 2 年生までを対象として開催したもので、練馬区立美術館で開催している「小野木学絵本原画展」を観覧し、学芸員から説明を受けた後、図書館スタッフが絵本の読み聞かせを行った。さらに、絵本の絵をモチーフにした作品作りのワークショップも行った。小野木学氏は 60 年代に活躍されていた方のため、図書館では除籍となっている本がほとんどで、読み聞かせでは、展覧会で展示していた絵本を使った。ワークショップでは、小さい子供が多かったが、最後まで集中して作品を作り、楽しんでいた。

(光) 12 月開催の大泉・関町・貫井・南田中図書館合同「絵本作家はたこうしろうさん講演会」について

→ (貫) はた氏の著作である絵本をプロジェクターで映して読み聞かせを行ったほか、ご自身のお子さんの遊んでいる写真を映しながら、子育てのヒントになるような身近な遊びについて講演された。参加者は子供 47 人、大人 51 人の計 98 人だった。

→ (光) 参加者のアンケートでは好評のようだが、一定数、話を聞くだけでなく、「一緒に何かしたかった」との声もあったが、何か考えはあるか。

→ (貫) 講師と話をしていく中でこのような事業内容となったが、対象者や方向性を考える中で様々なスタイルを模索していきたい。